

第14回沖縄県教育委員会会議（定例会）

1 日時 平成24年12月19日 15時10分～15時58分

2 場所 教育庁第1会議室

3 出席者

委員	安次嶺 委員（委員長） 中野 委員 新垣 委員 安里 委員 宮城 委員 大城 委員（教育長）	（欠席委員）
----	---	--------

教育 庁	統括監等	教育管理統括監、教育指導統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長、財務課長、施設課長、福利課長、 県立学校教育課長、義務教育課長、保健体育課長、 生涯学習振興課長、文化財課長
	職務のため 出席した者	総務課総務班班長、同班主査、主任（2名） 県立学校教育課特別支援教育班指導主事 義務教育課人事管理監 生涯学習振興課 管理班主査

4 傍聴した者

記者2人 / その他1人

平成24年第14回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:00）

<p>委員長</p>	<p>今年最後の委員会ですが、開会に先立ちまして、中野委員と私は、今回の会議を持って教育委員としての四年の任期を終えるため、ご挨拶申し上げたいと思います。</p> <p>私は四年前に教育委員に任命され、中野委員と共に四年間苦楽を共にして参りました。</p> <p>教育委員としての経験により視野が広がり、私にとって大きな財産になりました。そして、今後（個人として）沖縄県の、特に子ども達の教育、健康の問題を考えていく上でも、大変貴重な四年間でした。</p> <p>最後の一年間は委員長として勤めさせていただきました。どれだけ私が貢献出来たか分かりませんが、本当に委員の方々、教育長をはじめ、教育庁の職員の皆さんにも大変良くして頂いて、心から感謝申し上げます。マスコミの方にも沖縄県の教育問題をよくご理解頂き、真摯に教育問題に対処下さったことに心から感謝申し上げます。</p> <p>沖縄県の教育には色々な問題がありますが、着実に向上していると思います。将来立派な人材を育てるということで、教育現場の先生方も一生懸命頑張っておられますし、私達も教育委員会を離れた後も、外野から皆さんの支援を出来るだけ継続していきたいと考えております。これまで本当にありがとうございました。</p>
<p>中野委員</p>	<p>あらためて、事務局の皆さんや、マスコミには大変お世話になりました。先ほど委員長からも話があったように、委員としての四年間は自分自身の視野を広げさせて頂いたというのが本音です。</p> <p>県議会でも初めて議場で答える側になりましたが、県議会を通して、教育の問題は教育関係者だけでは解決できないと、非常に強く感じました。県民総ぐるみで、色々な視点から見ていき、取り組まないことには教育は成り立たないと痛感させられました。マスコミにおいても、教育に対する影響力は大変大きなものがあると感じました。教育界だけに居ては分からなかったことを、委員を務める四年間で認識させられ、非常に良い勉強になりました。</p> <p>委員に対しては、「教育委員会はなくてもよいのではないか」という声が全国的にあり、過去の各都道府県の委員を見ていると、いわゆる名誉職と言われるような状態のところが多かったように思います。それを反省し、平成18年に教育基本法が改正され、翌19年には教育三法が改正され、その一つの地教行法（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）の中で教育委員会を徹底的に見直すことになりましたが、（教育委員会に）本当の意味での仕事をさせようという狙いが条文から感じられました。</p>

私と安次嶺委員が着任してすぐ、（従来、教育委員の活動は月2回であったのを）月2回の活動では対応出来ないということで、基本的に毎週水曜日を活動日と定め、勉強会等を行うことにしました。これは大きな改革だったと思います。

私達には、多少の力みがあったかもしれないが、それまで県教育委員会が市町村教育委員会とほとんど連携していなかったということを受けて、市町村教育委員会に働きかけて一緒に考えていこうと、各市町村の教育委員会を回り、意見交換等も行いました。当時は「子ども達一人ひとりを健やかに心豊かに育てないといけない」という気持ちで回っていたが、結果として相当な数の市町村教育委員会を訪問出来たのではないかと思います。このことも、この四年間の中での、非常に良い結果ではなかったかと自分では思っています。

それから、国は、教育委員会に対し、事業を事務局に任せきりにするのではなく、事業の実施結果について自ら点検と評価を行い、報告書を作成することを決めました。報告書について、実際は各課長や総務課にまとめて頂いたところもありましたが、大学教授を始め外部から色々な情報を得て、こうして点検評価を実施出来たのは大きな変化だったのではないかと思います。

最後に、もう二点だけお願いがあります。まず、課題というと誰もが考える「学力向上」、これがまず一点。そして次に「児童生徒の健全育成」です。公安委員会との交流の中で、沖縄県がいかに健全育成に力を入れなければならないかを強く感じました。沖縄県は全国でもワーストに入る項目が数件ありますが、これを改善する為には県民全体で取り組まなければなりません。21世紀ビジョンにも教育分野についての記載があるので、近い将来、教育長を筆頭に一步でも二歩でもこれを前進させて頂きたいと思います。

しかし、私は沖縄県の将来を悲観してはいません。小中学校の学力が低いということが全国でも話題になっていますが、県内には素晴らしい人材がたくさんいます。先日の琉球新報にも、世界を股に掛け活躍する若者の記事が掲載されていました。台湾、香港、アメリカ、シンガポールを含め、339店舗を展開して、年商140億円を売り上げているという内容の記事です。この若者はまだ30歳ですし、以前にも北谷高校出身の若者がアフリカを舞台に頑張っていることが話題となりました。

若者は凄い力、エネルギーを持っています。自信を持ち、仕事も自分で創りだすような人材、企業家を育てていければと思います。そういう意味で皆が力を合わせれば、より多くの可能性を引き出せるということにもなるかと思っています。

委員長は70歳になられました、私もすぐに70歳になります。70歳からは微

	々たる力しかないかもしれませんが、今後も引き続き、出来ることを一緒に取り組んでいきたいと思えます。その節はよろしく申し上げます。ありがとうございました。
委員長	とても69歳とは思えない、力強いご発言でした。 それでは、ただ今から平成24年第14回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 次に第13回会議録の承認を行います。新垣委員をお願いします。
新垣委員	正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているとのことですので、承認してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は、安里委員をお願いします。
安里委員	はい。
委員長	次に教育長報告に入ります。報告1について説明をお願いします。
教育長	(教育長報告1の説明) ・平成24年第8回沖縄県議会(11月定例会)における質問・答弁概要について
委員長	議会では教育委員会に関する質問が多くありました、答弁お疲れさまでした。 御質疑ございますか。
新垣委員	学校現場におけるいじめの実態の報告があるが、これは生徒間のものである。生徒から教師に対する暴力の実態はどのようになっているか。
教育長	今のご質問は中学、高校両方にかかるものでしょうか。
新垣委員	はい。
教育長	では具体的な数字については、義務教育課、県立学校教育課よりお願いします。
義務課長	細かい数字についてはデータが手元がないのでお答え出来ませんが、対教師暴力を含め、暴力行為は年々減少傾向にあります。対教師暴力は全体の中でも少ない現状となっております。
県立課長	高校における対教師暴力は、平成21年5名、平成22年11名、平成23年5名となっております。
新垣委員	教師に対して暴力を振るう生徒は、やはり生徒同士でも暴力を振るった

	り、いじめたりしているのか。その点は把握しているか。
義務課長	義務教育課では、対教師暴力をした生徒が、対生徒間でも暴力を振るっているかどうかの細かいデータは確認しておりません。そのような傾向も可能性としてあると思いますが、データがあるかも含めて確認してみます。
県立課長	県立学校についても同様です。
新垣委員	以前も対教師の暴力について新聞に掲載されていたので、今後どのように対応していくのか。生徒同士も大事だが、教師という目上の方に対する意識も大事である。教師も教える義務、責任があると同時に生徒も学ぶ義務・責任があるので、やはり人権教育は生徒、教師共に行って頂きたい。
委員長	今の件と関連して、対教師暴力の件数が減少傾向になることは素晴らしいことですが、減少の理由はどのようなものなのでしょう。例えば、警察の介入が早期に行われるとか、学校内で生徒の暴力について積極的な行動をとる等の理由があるのでしょうか。
義務課長	理由としては大きく二つあると思います。一つは校内の体制を全校体制でしっかりとれるようになったことが大きな要因だと思います。これは、例えば生徒指導主事を中心に、あるいは校長・教頭が一体となり、対象生徒に合わせたケース会議を全校体制で開催し、問題を解消していくといった事例です。 二つめに、私ども教育行政としましては、例えばスクールカウンセラーですとか、スクールソーシャルワーカー、そして今年度から中一いきいきサポート支援事業ということで、人材を色々と派遣しております。現在その拡充も図っておりますし、専門家、学校、警察そのような関係機関との連携がスムーズに言っていることが減少の理由になっているのではないかと思います。実は、学校はぎりぎりまで生徒指導を行っており、問題が起こるとすぐ警察と連携するというのではなく、校内で頑張る、あるいは地域と連携して頑張る。それでも厳しいなという時や、危害が加えられているような状況である時には警察とも連携するというところでございます。問題に対する体制は整っておりますので、双方の良さが発揮されているのではないかと思います。
中野委員	4ページの「(2)少人数学級の進捗状況と推進計画について」の中で、教育長は「次年度については、4年生への少人数学級の導入について検討しているところです。」とあるので、この対応にかかる現状、進捗を伺いたい。
教育長	少人数学級の在り方検討委員会を発足しており、そこで検討していく中で市町村に対するアンケート調査等、色々な対応をして参りました。それらの状況を踏まえながら、少人数学級の導入について検討しているところでござ

	います。
中野委員	感触はいかがか。
義務課長	感触は良好だと思っております。
中野委員	県の行政側に聞きたいことなのだが、一括交付金は県全体としていくら余っているのか。あれだけ人材育成が大事だと言っているのに、余らすこと無く、全額を教育委員会で使用するぐらいの気概で頑張っていたきたい。出来れば4年生全てに少人数学級を導入して頂きたい。マスコミにも協力をお願いしたい。学力も全国的に低いと言われているところなので、ぜひ実現する方向で対応願いたい。
委員長	こういったところが、一番お金を掛けるべきところですね。 他にございませんか。 (しばし間があり) それでは、議事に入ります。本日は議案が4件となっています。なお、議案第2号から第4号は、人事案件となっていますので非公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 それでは、議案第1号の説明をお願いします。
県立課長	(議案第1号の説明) ・平成25年度沖縄県立特別支援学校の高等部の入学定員について
委員長	御質疑ございますか。
中野委員	8ページの注記に「大平特別支援学校の一般学級の入学定員には久米島高等学校分教室の入学定員を含む。」とあるが、入学希望者は何人か。
県立指導主事	希望者は1名となっております。
中野委員	9ページの「2(2)各学校の学級の増減」に記載されている、「重複障害児」は「+21」と数が多くなっているが、その事情を教えて欲しい。
県立課長	全体として重度重複化の傾向が見られるということでございます。今年度は、たまたま大きく増加しているもので、次年度は減少することになるかと思えます。しかし、全体としては増加傾向にあります。
委員長	従来一般学級にいらしたお子さんを重複学級に含めるようになったということはあるのでしょうか。
県立指導主事	いえ、特別支援学校からの進学生が重複障害学級のほとんどを占めております。特別支援学校が重度重複化している現状がありまして、そこから特別支援学校の高等部へスライドしているという状況でございます。
委員長	では今の中学3年生の学年が特に多いということですね。

県立課長	やはり増減をしながら、少しづつ増えております。
委員長	しかしこの増加は極端ではないでしょうか。
特別支援教育班指導主事	1学級の定員が3名ですので、4名になると2学級になります。数としてはそれほど増えてはいないのですが、学級数で極端に数字が増加したように見えるかもしれません。
委員長	その学級の担当教師も増加しなくてはなりませんね。それは良いことだと思います。 他にございませんか。 （しばし間があり） では、このとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 休憩します。 （関係者以外退室） （以下は非公開部分のため省略します）